

第5分科会 研究・研修

研究課題：学校の教育力向上を図る研究・研修の推進

「オール世羅」でつなぐ幼保・小・中・高連携の取組

提案者 世羅町立甲山小学校長 寺田 知巳

1 はじめに

広島県世羅郡世羅町は、広島県のほぼ中央に位置する中山間地で、自然豊かな花と果実の町である。町の課題としては、少子高齢化や過疎化等への対応が急務となっている。

世羅郡小学校長会は、小学校長4名で組織し、世羅教育の充実・発展を図るため、小・中・高等学校の校長同士で連携を図り、特色ある学校経営に努めているところである。近年は、不登校対応や特別支援教育、生徒指導上の諸課題について他校種との連携を強化し、児童生徒の個に応じた成長を支える取組を推進している。特に地元世羅高校へのあこがれをもたせる取組を小学校教育から始めることに重点を置いている。

2 研究の概要

(1) 校長の研修体制

① 小小連携

ア 世羅郡小学校長会（毎月1回）

世羅町教育委員会主催による定例校長会議後に研修会を持ち、県理事会報告や当面する課題について情報提供や協議・交流を行い、組織内での共通理解を図っている。内容によっては、小・中学校合同で行っている。

② 幼保小連携

ア 世羅町幼保小連携協議会

世羅町教育委員会主催による。また、保育所、認定こども園、小学校及び関係諸機関と

の連携を充実し、円滑な接続を図っている。

③ 小中連携

ア 世羅町校長会議（原則毎月1回）・研修会（年1回）

世羅町教育委員会主催による世羅町小・中学校校長会議が毎月開催されている。本会議では、教育長による講話や県・町の重要施策、当面する課題について指導・指示、助言を受けている。

イ 各中学校区校長会（毎月1回）

児童生徒・学校・保護者・地域がそれぞれつながりを深め、生徒指導上の諸課題の未然防止を図るとともに、3校区の一貫した系統的な指導を通して、児童生徒の学力定着・向上及び生徒指導の充実を図る。

④ 小中高連携

ア 世羅郡公立学校長会連合会（年2回）

全校長が町内公立学校を訪問し、授業参観を行うと共に学校経営の交流を行っている。特に、不祥事防止の取組交流を通して学校経営力の向上を図っている。

【不祥事防止のためのチェックリスト】

世羅町立甲山小学校 不祥事防止のためのチェックリスト				
項目	実施状況	実施状況	実施状況	実施状況
1 校務日誌の作成				
2 児童生徒の生活状況の把握				
3 児童生徒の生活状況の把握				
4 児童生徒の生活状況の把握				
5 児童生徒の生活状況の把握				
6 児童生徒の生活状況の把握				
7 児童生徒の生活状況の把握				
8 児童生徒の生活状況の把握				
9 児童生徒の生活状況の把握				
10 児童生徒の生活状況の把握				
11 児童生徒の生活状況の把握				
12 児童生徒の生活状況の把握				
13 児童生徒の生活状況の把握				
14 児童生徒の生活状況の把握				
15 児童生徒の生活状況の把握				

(2) 全教職員の資質・能力の向上に係る研修

① 幼保小連携

ア 各小学校区別協議会（年6回程度）

4月中に新一年生授業見学および情報交流。11月に体験入学、2月に入学説明会を実施。幼保見学交流を8月、12月に実施。入学前情報交流会を3月に実施。



② 小高連携（年1回）

ア 世羅高校コース別体験学習（小5）

- ・ 普通科・農業経営科・生活福祉科の3コースに分かれ高校生と学習。



イ 高校生による小学校訪問指導

- ・ 陸上記録会に向けて走り方の指導。
- ・ 総合的な学習の時間の取組への助言。

これらの取組を通し、小学生は世羅高校で学ぶことにあこがれをもち、高校生は小学生に教えることで自信を高めている。

③ 世羅教育研究会

世羅教育研究会の教科・領域の各部会の指導を行い、年間を通じて充実した部会の活動となるよう授業研究や実技講習会等の推進に努めている。

④ 中学校区教職員全体研修会

世羅高校長による講演会。世羅高校の求める生徒像と高校教育について共有する機会となった。



3 校長の役割

- 情報共有（町内各校の方向性・足並みをそろえ、各校がぶれない学校経営を行う。）
- リーダーシップ（情報共有の上、各校長が各学校の特色を生かした学校経営を行う。）
- 人材育成（学校教育目標の達成に向けて自走し協働できる教職員集団を育成する。）

4 おわりに

(1) 成果

- 地域に必要とされる人材育成プランについて、関係機関とも連携の上、0歳から高校生までの具体的なラインができている。
- 教職員全員が「オール世羅」で児童生徒を育成する意識が高まっている。

(2) 課題

- 少子高齢化、過疎化の課題による児童生徒の減少への対応を関係機関と連携する。
- 児童生徒の将来像の多様化に対応することにより、町外の高校への進学も少なくない。

以上のことから、当面する課題に対峙しながら、引き続き「オール世羅」でつなぐ他校種連携を密にし、地元世羅高校にあこがれをもつ児童生徒の育成を継続していきたい。